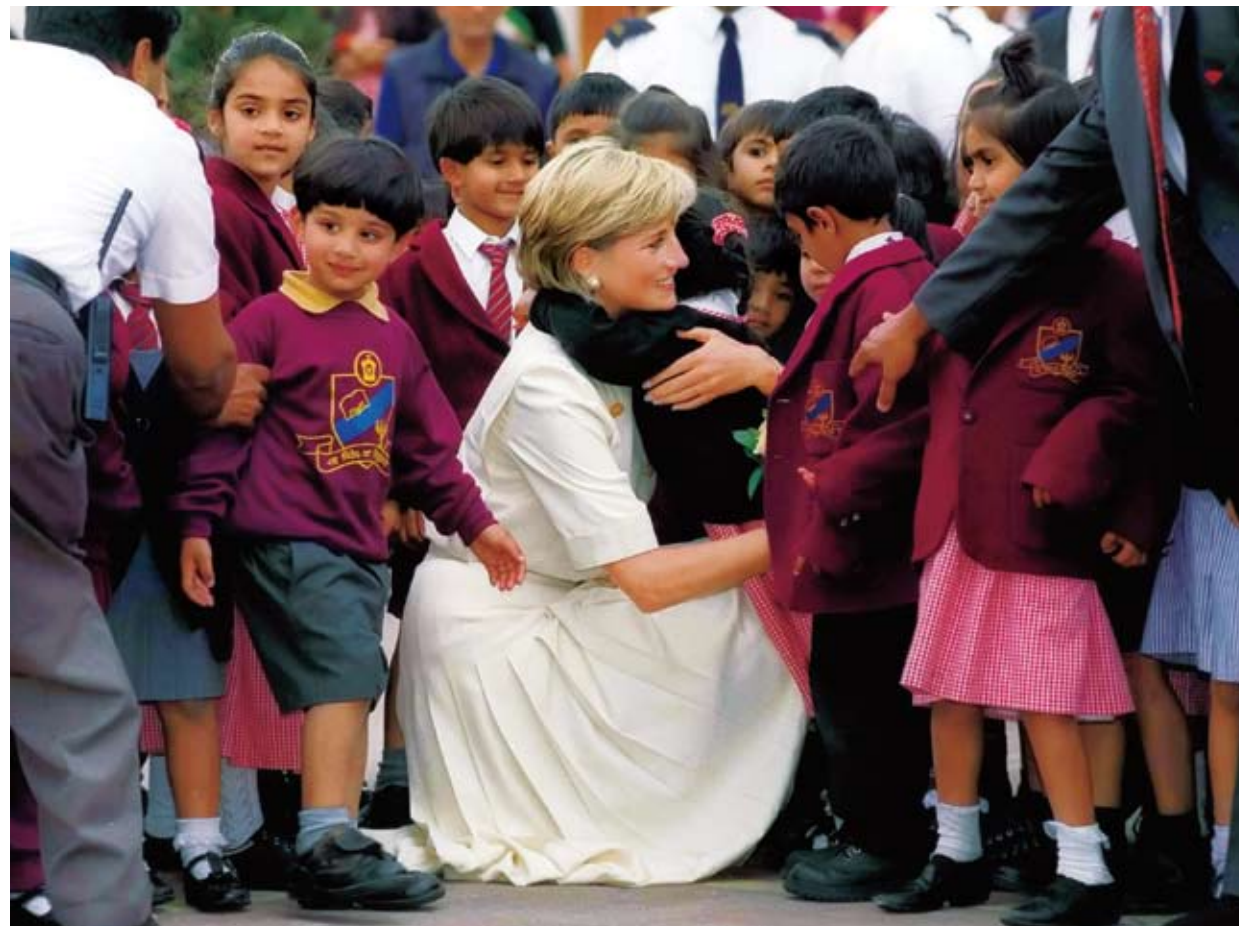


今なお輝き続けるプリンセス
Legend of Princess Diana
ダイアナ妃
という伝説
Text: KAORI NAKANO

Humanity



©Tim Graham/Corbis

この夏、没後10年を迎えたダイアナ妃。その鮮烈な存在感は、今もなお薄れることはありません。この連載では、イギリスの文化に通じたエッセイストの中野香織さんがダイアナ妃の思い出を振り返りつつ、その魅力を現在の視点から分析してゆきます。今月のテーマは「触れる」という、彼女独特の慈善活動スタイルについてです。



©GRAHAM TIM/CORBIS SYGMA



©Tim Graham/CORBIS



©CORBIS SYGMA



©Tim Graham/CORBIS

お金を集めて寄付する。訪問する。ものを贈る。ことばをかける。名のある人がおこなう慈善活動、人道的行為にはいろいろなスタイルがあるが、ダイアナスタイルのきわだった特徴は、なんといっても「さわる」ことであろう。まだ「エイズはさわるだけで伝染する」というデマまでとびかっていた1980年代の半ば、ダイアナ妃はエイズ患者が横たわるベッドの上に座り、彼の手を握る。世界中に報道されたこの写真は、エイズへの偏見を一掃することに多大な貢献を果たした。ダイアナ妃の「おさわり」効果はそれだけにとどまらない。ダイアナ妃に触れられて昏睡状態から目覚め、奇跡的に回復した3歳の男の子のエピソードをはじめ、ダイアナ妃が抱きしめたり触れたりすることで魔法のように病気がよくなったという証言は少なくない。美しいダイアナ妃に触れた感激が患者の気力を高めるから、という説明もできよう。しかしここで、西洋の歴史に根付くある信仰を思い出さずにはいられない。それは、スチュアート王家の血を引くイギリスとフランスの王は奇跡の治癒力をもつ、と信じられてきたこと。王は、「るいれき」(頭部リンパ節結核)に苦しむ患者の患部に手を当て、金貨(タッチピース)をお手付け金を与えることで、患者を病から救うことができた。王が治せるのは「るいれき」のみであったため、この病は「王の疾病(King's Evil)」としても知られる。神の代理人としての王の力を大衆に知らしめるパフォーマンスでもあったのかもしれないが、ともあれ、ダイアナ妃にはスチュアート王家のチャールズ2世とジェームズ2世の血が流



©Tim Graham/CORBIS



©LFI/amanaimage

DIANA's COLUMN



オーストラリアの舞臺女優、ダイアナ・ハグワの秘史を語る。ダイアナの愛を語る。ダイアナの愛を語る。ダイアナの愛を語る。

Photo by YONORI HASEGAWA

!?

皇太子

40年記念に、オデッセイをダイアナ

「クワトロ角関係の物語を展開する」というもの。残念を願ったのです(ポール・バレル著「ダイアナ妃 遺された秘密」)。

れている。ロイヤルタッチがヒーリンググ
ッチとして働くという信仰を無意識の底に
抱く人々にとって、ダイアナ妃のおさわり
は歴代の王が行使した奇跡のおさわりと同
じありがたみをもったのではないか。

ただ、ダイアナ妃自身は、ロイヤルタッ
チの深い意味などことさら前面に出すこと
なく、ひたすら愛情の証として、さわる。

ダイアナタッチを象徴するこんなエビソ
ードがある。1997年8月、地雷撲滅キ
ャンペーン第二弾として、ダイアナ妃はジ
ヤーナリストらとサラエボを訪れていた。
一行はレンガを積んだだけの家に住む、両
親を亡くした15歳の少女を見舞う。少女は、
幼い弟や妹のために残飯を探していたとき
に、地雷で片足を失っていた。皆がこの少
女に注目する間、ダイアナ妃はカーテンの
奥の部屋へ行く。悪臭ただよう暗闇の中、

やせ細った女の子が、排尿でびっしょりぬ
れて目をとじたまま座っていた。少女の妹
であるダイアナ妃は女の子を抱き上げ、
腕や足をなでた。女の子は目を開けたが、
盲目だった。この光景を目にした唯一の証
人であるダイアナ妃の執事は、カルカッタ
で目と耳が不自由な少年に会ったときにダ
イアナ妃が書いたメモを引用して妃の心中
を代弁している——「しっかりと抱きしめな
がら、この子が私の愛情を感じてくれるこ
トを願っています(ポール・バレル著「ダ
イアナ妃 遺された秘密」)。

ダイアナ妃にとって、触れることは、愛
情を伝えることだった。「私たちの時代の
最悪の病は、多くの人が一度も愛されたこ
とがないことに苦しんでいるということな
のです」とダイアナ妃は語る。病に孤独に
苦しむ人々や親の愛を知らない子どもたち

に、触れることで愛を感じさせる。そんな
祈りのようなおさわりを通して、ダイアナ
妃は時代の病そのものを癒そうとしたよう
にも見える。

病院で、地雷地帯で、貧困地区で、人々
に触れるダイアナの姿がひとときわ崇高な美
しさをもって胸を打つのは、愛されないこ
とに苦しんでいた人間のひとりこそほかな
らぬダイアナ妃自身であったことを、私た
ちが知るからでもある。結婚した夫の心は
ほかの女性が占めていた。王室との確執に
ストレスを募らせ、自傷行為や摂食障害を
繰り返した。ほかの男性との恋愛に走って
も裏切りにあった。占星術や心理療法など
あらゆるセラピーにすがっても救いはなか
った。暗中模索の果て、心から血がにじみ
そうな苦闘の暁にダイアナ妃が自身で見つ
けたその道こそ、人々を愛をもって癒すこ
とで自分が愛され癒されるという道だっ
た。だからこそ、ダイアナ妃が弱者に向け
る愛は、生半可ではなく強い。97年1月、
地雷撲滅キャンペーン第一弾として訪れた
アンゴラでは、地雷で内臓が飛び出して
いた少女の顔を、多くの人がひるむなか、目
をそむけることなくじつと見続けた。自分
の姿が見るに耐えられないものだとして少女に
思わせないための、強い意志と深い愛が生
んだ配慮にほかならなかった。

ダイアナ妃の死後(葬儀の前日には互い
に尊敬し合っていたマザーテレサが没し
た)、イギリスではうつ病の治療を受ける
患者が激減した、と報じられた。ダイアナ
妃の死を嘆き、涙を流し、感情を表に出す
ことで、心に抑圧を抱えていた多くの人が
癒された、という旨の分析をする精神科医
もいた。ダイアナ妃が発揮した奇跡の治癒
力は、先祖の王たちのスケールをはるかに
上回ったのである。